

6

14さて、イエスの名が知れわたって、ヘロデ王の耳にはいった。ある人々は「バプテスマのヨハネが、死人の中からよみがえってきたのだ。それで、あのような力が彼のうちに働いているのだ」と言い、
15他の人々は「彼はエリヤだ」と言い、また他の人々は「昔の預言者のような預言者だ」と言った。
16ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首を切ったあのヨハネがよみがえったのだ」と言った。
17このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤをめぐったが、そのことで、人をつかわし、ヨハネを捕えて獄につないだ。
18それは、ヨハネがヘロデに、「兄弟の妻をめとるのは、よろしくない」と言ったからである。
19そこで、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。
20それはヘロデが、ヨハネは正しくて聖なる人であることを知って、彼を恐れ、彼に保護を加え、またその教を聞いて非常に悩みながらも、なお喜んで聞いていたからである。

6

21ところが、よい機会がきた。ヘロデは自分の誕生日の祝いに、高官や将校やガリラヤの重立った人たちを招いて宴会を催したが、
22そこへ、このヘロデヤの娘がはいってきて舞をまい、ヘロデをはじめ列座の人たちを喜ばせた。そこで王はこの少女に「ほしものはなんでも言いなさい。あなたにあげるから」と言い、
23さらに「ほしければ、この国の半分でもあげよう」と誓って言った。
24そこで少女は座をはずして、母に「何をお願いしましょうか」と尋ねると、母は「バプテスマのヨハネの首を」と答えた。
25するとすぐ、少女は急いで王のところに行って願った。「今すぐに、バプテスマのヨハネの首を盆にのせて、それをいただきとうございます」。
26王は非常に困ったが、いったん誓ったのと、また列座の人たちの手前、少女の願いを退けることを好まなかった。
27そこで、王はすぐに衛兵をつかわし、ヨハネの首を持って来るように命じた。衛兵は出て行き、獄中でヨハネの首を切り、
28盆にのせて持ってきて少女に与え、少女はそれを母にわたした。
29ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、その死体を引き取りにきて、墓に納めた。

6

30 さて、使徒たちはイエスのもとに集まってきて、自分たちがしたことや教えたことを、みな報告した。
 31 するとイエスは彼らに言われた、「さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行つて、しばらく休むがよい」。それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。
 32 そこで彼らは人を避け、舟に乗って寂しい所へ行つた。
 33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ、一せいに駆けつけ、彼らより先に着いた。
 34 イエスは舟から上がって大ぜいの群衆をこらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた。
 35 ところが、はや時もおそくなつたので、弟子たちはイエスのもとにきて言った、「ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。
 36 みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」。
 37 イエスは答えて言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。弟子たちは言った、「わたしたちが二百デナリものパンを買つてきて、みんなに食べさせるのですか」。
 38 するとイエスは言われた、「パンは幾つあるか。見てきなさい」。彼らは確かめてきて、「五つあります。それに魚が二ひき」と言った。
 39 そこでイエスは、みんなを組々に分けて、青草の上にすわらせるように命じられた。
 40 人々は、あるいは百人ずつ、あるいは五十人ずつ、列をつくつてすわつた。
 41 それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになつた。
 42 みんなの者は食べて満腹した。
 43 そこで、パンくずや魚の残りを集めると、十二のかごにいっぱいになつた。
 44 パンを食べた者は男五千人であつた。

6

45 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダへ先におやりになつた。
 46 そして群衆に別れてから、祈るために山へ退かれた。
 47 夕方になつたとき、舟は海のまん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。
 48 ところが逆風が吹いていたために、弟子たちがこぎ悩んでいるのをこらんになつて、夜明けの四時ごろ、海の上を歩いて彼らに近づき、そのそばを通り過ぎようとした。
 49 彼らはイエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思ひ、大声で叫んだ。
 50 みんなの者がそれを見て、おじ恐れたからである。しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、「しつかりするのだ。わたしである。恐れることはない」と言われた。
 51 そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。彼らは心の中で、非常に驚いた。
 52 先のパンのことを悟らず、その心が鈍くなつていたからである。
 53 彼らは海を渡り、ゲネサレの地に着いて舟をつないだ。
 54 そして舟からあがると、人々はすぐイエスと知つて、
 55 その地方をあまねく駆けめぐり、イエスがおられると聞けば、どこへでも病人を床にのせて運びはじめた。
 56 そして、村でも町でも部落でも、イエスがはいつて行かれる所では、病人たちをその広場におき、せめてその上着のふさにでも、さわらせてやつていただきたいと、お願いした。そしてさわつた者は皆いやされた。

- 1 さて、パリサイ人と、ある律法学者たちとが、エルサレムからきて、イエスのもとに集まった。
- 2 そして弟子たちのうちに、不浄な手、すなわち洗わない手で、パンを食べている者があるのを見た。
- 3 もともと、パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人の言伝えをかたく守って、念入りに手を洗ってからでないと、食事をしない。
- 4 また市場から帰ったときには、身を清めてからでないで、食事をせず、なおそのほかにも、杯、鉢、銅器を洗うことなど、昔から受けついでかたく守っている事が、たくさんあった。
- 5 そこで、パリサイ人と律法学者たちとは、イエスに尋ねた、「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言伝えに従って歩まないで、不浄な手でパンを食べるのですか」。
- 6 イエスは言われた、「イザヤは、あなたがた偽善者について、こう書いているが、それは適切な預言である、『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れていて、人間の言伝えを固執している』。
- 7 人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拜んでいる』。
- 8 あなたがたは、神のいましめをさしおいて、人間の言伝えを固執している」。
- 9 また、言われた、「あなたがたは、自分たちの言伝えを守るために、よくも神のいましめを捨てたものだ。
- 10 モーセは言ったではないか、『父と母とを敬え』、また『父または母をのしる者は、必ず死に定められる』と。
- 11 それなのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたに差上げるはずのこのものはコルバン、すなわち、供え物ですと言えは、それでよいとして、
- 12 その人は父母に対して、もう何もしないで済むのだと言っている。
- 13 こうしてあなたがたは、自分たちが受けついで言伝えによって、神の言を無にしている。また、このような事をしばしばおこなっている」。

- 14 それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた、「あなたがたはみんな、わたしの言うことを聞いて悟るがよい。
- 15 すべて外から人の中にはいって、人をけがしうるものはない。かえって、人の中から出てくるものが、人をけがすのである。」
- 16 聞く耳のある者は聞くがよい」。
- 17 イエスが群衆を離れて家にはいられると、弟子たちはこの譬について尋ねた。
- 18 すると、言われた、「あなたがたも、そんなに鈍いのか。すべて、外から人の中にはいって来るものは、人を汚し得ないことが、わからないのか。
- 19 それは人の心の中にはいるのではなく、腹の中にはいり、そして、外に出て行くだけである」。イエスはこのように、どんな食物でもきよいものとされた。
- 20 さらに言われた、「人から出て来るもの、それが人をけがすのである。
- 21 すなわち内部から、人の心の中から、悪い思いが出て来る。不品行、盗み、殺人、
- 22 姦淫、貪欲、邪悪、欺き、好色、妬み、誹り、高慢、愚痴。
- 23 これらの悪はすべて内部から出てきて、人をけがすのである」。

24さて、イエスは、そこを立ち去って、ツロの地方に行かれた。そして、だれにも知れないように、家の中にはいられたが、隠れていることができなかつた。

25そして、けがれた霊につかれた幼い娘をもつ女が、イエスのことをすぐ聞きつけてきて、その足もとにひれ伏した。

26この女はギリシヤ人で、スロ・フェニキヤの生れであつた。そして、娘から悪霊を追い出してくださいとお願いした。

27イエスは女に言われた、「まず子供たちに十分食べさすべきである。子供たちのパンを取つて小犬に投げてやるのは、よろしくない」。

28すると、女は答えて言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、食卓の下にいる小犬も、子供たちのパンくずは、いただきます」。

29そこでイエスは言われた、「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい。悪霊は娘から出てしまった」。

30そこで、女が家に帰ってみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまつていた。

31それから、イエスはまたツロの地方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通りぬけ、ガリラヤの海べにこられた。

32すると人々は、耳が聞えず口のきけない人を、みもとに連れてきて、手を置いてやっていただきたいとお願いした。

33そこで、イエスは彼ひとりを群衆の中から連れ出し、その両耳に指をさし入れ、それから、つばきでその舌を潤し、

34天を仰いでため息をつき、その人に「エバタ」と言われた。これは「開けよ」という意味である。

35すると彼の耳が開け、その舌のもつれもすぐ解けて、はつきりと話すようになった。

36イエスは、この事をだれにも言つてはならぬと、人々に口止めをされたが、口止めをすればするほど、かえつて、ますます言いひろめた。

37彼らは、ひとかたならず驚いて言った、「このかたのなかつた事は、何もかも、すばらしい。耳の聞えない者を聞えるようにしてやり、口のきけない者をきけるようにしておやりになつた」。

8

1 そのころ、また大ぜいの群衆が集まっていたが、何も食べるものがなかったので、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた、
2 「この群衆がかわいそうである。もう三日間もわたしと一緒にいるのに、何も食べるものがない。
3 もし、彼らを空腹のまま家に帰らせるなら、途中で弱り切ってしまうであろう。それに、なかには遠くからきている者もある。」
4 弟子たちは答えた、「こんな荒野で、どこからパンを手に入れて、これらの人々にじゅうぶん食べさせることができましょうか。」
5 イエスが弟子たちに、「パンはいくつあるか」と尋ねられると、「七つあります」と答えた。
6 そこでイエスは群衆に地にすわるように命じられた。そして七つのパンを取り、感謝してこれをさき、人々に配るように弟子たちに渡されると、弟子たちはそれを群衆に配った。
7 また小さい魚が少しばかりあったので、祝福して、それをも人々に配るようにと言われた。
8 彼らは食べて満腹した。そして残ったパンくずを集めると、七かごになった。
9 人々の数はおよそ四千人であった。それからイエスは彼らを解散させ、
10 すぐ弟子たちと共に舟に乗って、ダルマヌタの地方へ行かれた。

8

11 パリサイ人たちが出てきて、イエスを試みようとして議論をしかけ、天からのしるしを求めた。
12 イエスは、心の中で深く嘆息して言われた、「なぜ、今の時代はしるしを求めるのだろうか。よく言い聞かせておくが、しるしは今の時代には決して与えられない。」
13 そして、イエスは彼らをとに残し、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。
14 弟子たちはパンを持って来るのを忘れていたので、舟の中にはパン一つしか持ち合わせなかった。
15 そのとき、イエスは彼らを戒めて、「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とを、よくよく警戒せよ」と言われた。
16 弟子たちは、これは自分たちがパンを持っていないためであろうと、互に論じ合った。
17 イエスはそれと知って、彼らに言われた、「なぜ、パンがないからだと言っているのか。まだわからないのか、悟らないのか。あなたがたの心は鈍くなっているのか。」
18 目があっても見えないのか。耳があっても聞えないのか。まだ思い出さないのか。
19 五つのパンをさいて五千人に分けたとき、拾い集めたパンくずは、幾つのかごになったか。弟子たちは答えた、「十二かごです。」
20 「七つのパンを四千人に分けたときには、パンくずを幾つのかごに拾い集めたか。」「七かごです」と答えた。
21 そこでイエスは彼らに言われた、「まだ悟らないのか。」

²²そのうちに、彼らはベツサイダに着いた。すると人々が、ひとりの盲人を連れてきて、さわってやっていた。だきたいとお願ひした。

²³イエスはこの盲人の手をとって、村の外に連れ出し、その両方の目につばきをつけ、両手を彼に当てて、「何か見えるか」と尋ねられた。

²⁴すると彼は顔を上げて言った、「人が見えます。木のように見えます。歩いてるようです」。

²⁵それから、イエスが再び目の上に両手を当てられると、盲人は見つめているうちに、なおってきて、すべてのものがはっきりと見えだした。

²⁶そこでイエスは、「村にはいってはいけない」と言って、彼を家に歸された。